

Physor 2026 参加報告

北海道大学 原子炉工学研究室

修士課程 2 年 相澤 悠太・三岩 深悟・吉池 裕太, 修士課程 1 年 堀 太賀

この度、北海道大学原子炉工学研究室に所属する相澤・三岩・吉池・堀の、イタリア・トリノにて開催された、Physor2026 の学生視点での参加報告を行う。

1. 発表・質疑応答に関して

・三岩

私は「Investigation of Possibility of Delayed Mode Contamination in Prompt Neutron Decay Constant with EFP Model」という題目で発表しました。発表前に緊張することはありましたが、直前になると落ちつき、本番は緊張せずにほぼ練習どおり発表することが出来ました。質疑応答では聴衆からの質問が出ず、座長から質問をいただいたため、あまり伝わらなかったか興味を持ってもらえなかったと悔しく思います。その座長からの質問はところどころの単語やフレーズしか聞き取ることが出来ず、正確な返答が出来なかったため、英語力の未熟さを痛感しました。

・吉池

私は「Investigation of Mapping Techniques in Adaptive Angular Discretization for the Discrete-Ordinate Method」という題目で発表を行いました。内容は、SN 法において領域ごとに角度点数を変更する適合角度離散化法 (AAD) に関する研究です。



今回の発表を通じて、自身のリスニング能力と語彙力の不足を痛感しました。質疑応答では質問の意図を十分に理解できず、何度か聞き返してしまいました。その結果、質問者の方が途中から質問ではなくコメントとして話をまとめる場面もあり、自身の英語力の課題を強く実感しました。

一方で、発表に関しては事前に十分な準備と練習を行っていたこともあり、比較的落ち着いて進めることができたと感じています。今後、英語で発表や質疑応答を行う機会があれば、今回の経験を活かし、リスニング力や語彙力をさらに向上させた上で臨みたいと思います。

・堀

私は今回、「Burnup Calculation Using POD-Based Neutron Spectrum Reconstruction : Application to High-temperature Gas-Cooled Reactor Core Analysis」というテーマにて発表しました。内容は高温ガス炉の高速燃焼計算モデルに関するもので、発表自体はスムーズに進行し、特に大きなミスありませんでしたが、スライドの構成があまり洗練されていなかったためか、うまく伝わっていないように感じました。質疑では、事前に相談をさせていただいていた原子力機構の方に助けていただく場面もあり、実力不足を感じました。

・相澤

私は今回、「Fundamental Study on Dimension Reduction of Covariance Matrix Modified by Data Assimilation」という題目で発表を行いました。本番では緊張のあまり少し早口になってしまったものの、全体としては比較的スムーズに進行できたと感じています。一方で、質疑応答の際には質問内容を正確に聞き取ることが困難な場面があり、その点については自身の課題として大きな心残りとなりました。

2. 会場での思い出

・三岩

レセプションで外国の方と知り合い、後にも何度か会場でお会いすることがありました。その方に企業ブースでペンやストラップを貰えることを教えてもらい、一緒に行ったりしました。会場では軽食と飲み物を貰えるコーヒブレイクやバイキング形式のランチがあり、美味しい食べ物を楽しむことができました。学会や学会イベントが夜まで開催される時にはワインやビールも飲むことができ、せっかくなのでさまざまな種類のお酒を楽しみました。

・吉池

今回の学会では、レセプションパーティーやコーヒブレイクなどの交流の機会が数多く設けられていました。その際には、海外の研究者や学生の方々と比較的円滑にコミュニケーションを取ることができたと思います。

名古屋大学のカレンさんやJAEAの多田さんに連れられて海外の研究者の方々と話した際には、お二人の英語のスピードについていくのが精一杯でした。しかし、北海道大学の遠藤くんの発表に質問をしてくださった中国の先生とは、趣味のアニメの話題で意気投合し、その後も何度か会話を楽しむことができ



ました。また、中国から参加していた学生の方とも交流し、一緒に写真を撮る機会がありました。

・堀

会場では毎日朝食や昼食、ディナーなどが提供されました。海外ということもあり、あまり馴染みのないものを味わうことができ、新鮮な体験でした。また、食事中は基本的に北大や名大の先輩方や同期と会話するにとどまり、もっと積極的にさまざまな方に話しかけに行ってもよかったと思いました。なお、学会中は SMR の開発に関するセッションや、モンテカルロ法などのセッションを聴講しましたが、リスニング力が足りず、聞き取れない場面も多くありました。

・相澤

会場では、自分と同じセッションの発表を中心に聴講しました。同じ専門用語や表現が繰り返し用いられることが多く、当初はほとんど聞き取ることができませんでしたが、発表を重ねて聞くうちに徐々に内容を理解できるようになり、自身の成長を実感することができました。また、会場では軽食が提供されていたほか、ポスターセッション中には飲み物やアルコール類も用意されていたことが非常に新鮮で、印象に残る経験となりました。

3. 観光

・三岩

トリノ王宮やサンカルロ広場、学会イベントで訪れたトリノ自動車博物館などさまざまな場所に行きました。観光名所に加え、ヨーロッパの街並みや遠くに見えるアルプス山脈も非常に印象に残っています。左側の写真を見



て分かります。緑とヨーロッパの建物の組み合わせが非常に美しかったです。食事ではパスタやピザ、ワインなど、イタリアを代表するような物を楽しみました。特にチーズかけ放題のカルボナーラがこれまで食べた中で一番美味しく、忘れられない思い出になりました。

・吉池

学会会場であったトリノには、トリノ王宮やエジプト博物館などの観光名所があり、学会の合間を利用して訪れることができました。特にトリノ王宮は、日本ではなかなか見ることのできない広大な庭園、壮大な宮殿、美術館が一体となった施設であり、その規模の大きさに圧倒されました。



また、学会初日の夕食には北海道大学の参加者で本場のイタリアンレストランを訪れ、パスタを味わいました。日本ではあまり見かけない特徴的な形状と食感を持つパスタであり、日本人にも親しみやすい味付けで非常に美味しかったです。報告書を執筆している今でも、もう一度食べたいと思うほど印象に残っています。

・堀

学会参加以外の時間は、街を歩き回って時間を浪費しました。街を歩き回り、大きな犬、路上の雑誌屋、バザー、落書きなどを眺めて歩くだけでかなり満足できました。また、トリノ王宮などの観光地を訪れたり、イタリアの寿司を購入したりなど、新鮮な体験ができました。しかし最終日は風邪をひいてしまった上、無理をして暴食をしたことで体調が悪化し、不調のまま帰国するに至りました。

トリノ市内の飲用水供給所→



・相澤

トリノ王宮など、トリノを観光していました。そこで日本とは異なる街並みに触れ、とても新鮮な経験となりました。また、パスタやピザなどのイタリア料理がどれも非常に美味しく印象に残りました。現地の文化に触れて、トリノを満喫できた忘れられない思い出になりました。

4. 総括

・三岩

初めての国際学会参加にあたり、不安はありましたが、しっかり練習して本番をやりきることができました。これからの課題として英語力の向上やプレゼンのレベルアップなどに取り組んでいきたいです。

海外での移動や生活では、バスのチケット売り場がわからないなど困ったこともありました。現地の方々が英語で丁寧に教えてくださり乗り切ることができました。英語だけでなく何とかする経験をする事で少し自信がつけました。

研究で一番お世話になった千葉先生、研究でご協力いただいた名大の遠藤先生、引率してくださった藤田先生に感謝いたします。

・吉池

今回の PHYSOR への参加は、私にとって初めての国際学会であり、不安も大きくありました。しかし、その分得られた経験や刺激も多く、非常に有意義な機会となりました。

英語によるコミュニケーションには依然として課題が残るものの、今回の経験を通じて英語に対する苦手意識や恐怖心は大きく薄れました。むしろ、今後そのような機会があれば積極的に挑戦していきたいと考えています。実際に、現在 (2026 年 6 月) 研究室にインターン生として来られている海外の方とも積極的にコミュニケーションを取るよう心がけています。

最後に、このような貴重な経験と学びの機会を与えてくださった千葉先生、藤田先生をはじめとする関係者の皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

・堀

この度のイタリア遠征は自分にとって初の海外体験であり、新鮮なことばかりでした。学会参加自体も 2 回目であり、かなり緊張していましたが、先生や先輩方にくっついて行動することでなんとか無事に帰還することができました。また、自分は英語に対してかなりの苦手意識を持っていましたが、今回の体験を通してそれらが少し解消されたように思います。帰国後、研究室の同期と英語プレゼン練習会をした際も、「国際学会を乗り越えてる雰囲気がある」との言葉をいただきました。全体として、今回の学会ではスライドの作り方や話し方など、自身の課題を明確化することができました。この経験を活かし、来年もどこかの国際学会に参加できればと思います。

・相澤

初めての国際学会への参加であったため不安もありましたが、結果として非常に楽しく、有意義な経験となりました。英語での発表も初めてであり、不慣れな点や課題も見つかりま

したが、無事に終わることができてよかったです。また、海外での移動や滞在も初めての経験であり、不安もありましたが、大きなトラブルなく帰国することができてよかったです。今回の経験を今後の研究活動に活かしていきたいと思います。このような貴重な機会をいただいた先生方に感謝いたします。